

続花頭巾 (1956)

メディア 映画

ジャンル 時代劇

製作国 日本

色彩 B&W

初公開日 1956/11/07

【解説】

同じ年に公開された「花頭巾」の後篇で、前編と同じく田坂勝彦がメガホンをとった。脚本は「月形半平太」の犬塚稔。前篇の解説（あらすじ）の後に本編が始まる構成になっている。

久米寺舜馬たちに追い詰められた由美だったが、信念を曲げない態度を見せ、彼らを退かせることに成功。死んだと思われた姉の奈美が生きていることを知り、監禁されているという名古屋城へ向かった。無事に姉と再会した由美は、京へ入り一味の居所を探り当てる。弦太郎と朱童子は舜馬の屋敷に入り込み、落とし穴に落とされ土牢に閉じこめられるが、無事に脱出し再び由美と合流。津築権兵衛が九州に向かったことを知り、由美たちは海路で博多へ移動するのだった。

【クレジット】

監督 田坂勝彦

製作 武田一義

企画 高椋廸夫

原作 村上元三

脚本 犬塚稔

撮影 武田千吉郎

美術 太田誠一

音楽 渡辺浦人

出演 山本富士子

市川雷蔵

勝新太郎

阿井美千子

林成年